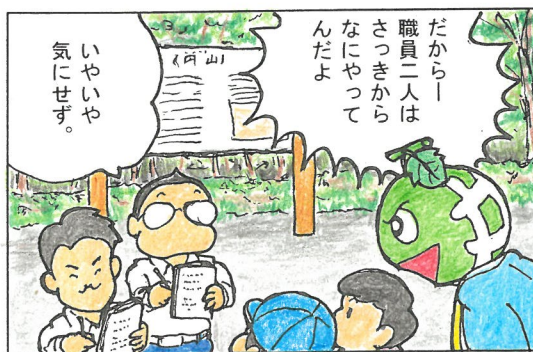
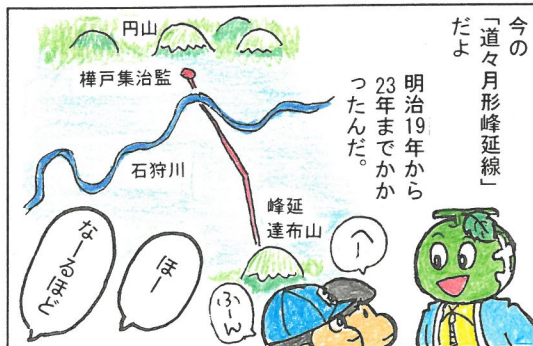
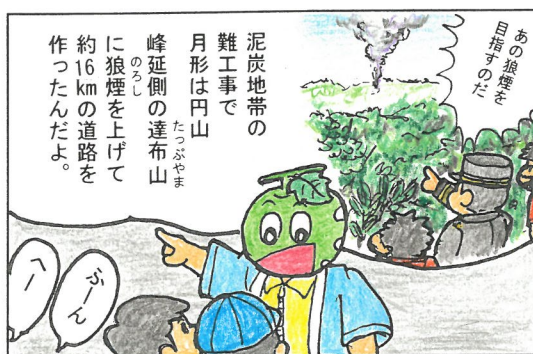
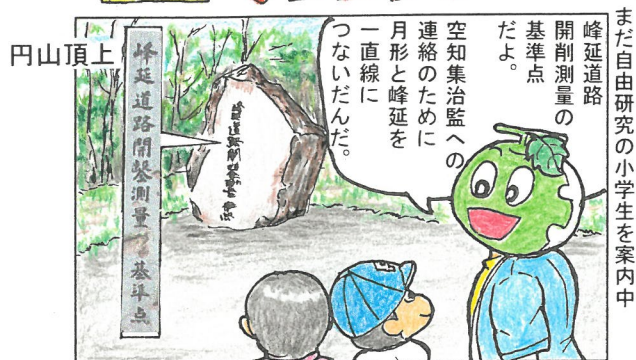


ベルデの つきがた グラフティ



作
SのAたろう

囚徒による道路開削は、1886(明治19)年から始まり、空知集治監ができた市来知(現三笠市)までの道路(峰延道路)や、現在の国道12号の前身となる上川道路をはじめ、網走や釧路にも及んでいきます。

ロシアの脅威に備えるため、いち早い道路開削が求められ、多くの囚徒が厳しい労役に動員されました。事故や病気などで亡くなってしまったり、逃亡を謀り斬り殺された人も数多くいたといえます。

まさに「もうひとつの北海道開拓史」と言えるものです。

「月形樺戸博物館」では詳しく解説・展示しておりますので、多くの先人達が歩いた歴史の一端を感じてください。

ご来館をお待ちしています。